

(別紙)

厚生労働省の業務改善事例 (平成23年3月第2週までの報告分)

○改善事例1

柔道整復師の施術に係る療養費の取扱いに関するQ & Aの追加

【改善点】

柔道整復師の施術に係る療養費の取扱いについては、昨年6月の改定後、疑義解釈資料(Q & A)を作成し、円滑な施行に努めてきましたが、その後も各自治体等から質問が寄せられていたことから、3月3日、Q & Aの追加分を取りまとめ、各自治体や地方厚生局等に周知しました。

(参考) 療養費の取扱い(Q & A)について

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryouhoken/iryouhoken13/03.html>

(照会先)

保険局医療課医療係(内線3275)

○改善事例 2

献血が可能となる年齢等の変更（平成23年4月1日～）とQ & Aの掲載

【改善点】

近年、我が国では、10～20歳代の若年層の献血率が人口減以上に低下しています。この献血率低下の一因として、輸血による副作用の発生リスクを減らすため、400ml献血由来の血液製剤の需要が増加している一方で、16・17歳の方は200ml献血しかできないことが挙げられていました。

このため、医学的見地からの検証の結果を踏まえ、現行の採血基準を見直し、平成23年4月1日から、17歳男性の方が400ml献血を行うことを可能にします。

また、男性に限り、血小板成分献血が69歳まで出来るようにする等の改正を行います。

今回の改正による現状と変更後の比較表や主な変更点、Q & Aについて、厚生労働省ホームページに掲載しております。

今後とも、献血への温かい御理解・御協力をお願いいたします。

（参考）平成23年4月1日から献血の可能年齢等（採血基準）が変わります

http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/ki_jun/index.html

（照会先）

医薬食品局血液対策課献血推進係（内線 2904）

○今週の現場訪問・意見交換 1

社会・援護局関係主管課長会議の開催

【概要】

生活保護、地域福祉、福祉人材確保対策、災害対策等の社会福祉関係施策や、援護施策にかかる平成 23 年度に向けた動向等について、各自治体の担当課と情報共有し、よりの確な制度運営につなげるため、3月3日、社会・援護局関係主管課長会議を開催しました。

会議では、厚生労働省から生活保護制度の見直しについてや、平成 23 年度予算案等について説明を行ったほか、質疑応答を行いました。質疑応答に関しては、事前に自治体からいただいた質問等について、回答を当日の説明の中に盛り込むとともに、当日は、自治体の担当者から社会福祉行政等について質問が寄せられました。

(照会先)

社会・援護局総務課総務係（内線 2814）

社会・援護局書記室援護管理係（内線 3421）

○今週の現場訪問・意見交換 2
第26回技能グランプリの開催

【概要】

技能グランプリは、上級技能者を対象とした特級や1級などの技能検定に合格し、日本のものづくり産業を支える熟練技能士が「技」の日本一を競い合う大会です。昭和56年から毎年、平成14年からは隔年で開催しています。

3月4日（金）～7日（月）の日程で、千葉県千葉市の幕張メッセを主会場として開催された「第26回技能グランプリ」には、各都道府県から選抜された480名の選手が、服飾系（婦人服製作、紳士服製作、和裁など）、建築系（建築大工、かわらぶき、畳製作、配管など）、機械加工系（旋盤、フライス盤、機械組立てなど）、サービス産業系（日本料理、フラワー装飾、貴金属装身具製作など）といった様々な分野にわたる26の競技職種に出場しました。

競技会場では、緊張した面持ちの選手が一心不乱に課題に取り組む様子を職場の関係者や家族が見守る中、一般来場者が熟練した技のすばらしさに足を止めて見入る姿が多く見られました。

最終日に行われた閉幕式では、特に優秀な成績を収めた4競技職種の4選手に内閣総理大臣賞が、その他の22競技職種の優勝者に厚生労働大臣賞が授与されたほか、入賞者全員に主催者賞（金メダル、銀メダル、銅メダル、敢闘賞）が授与されました。また、最優秀選手団賞として東京都選手団に厚生労働大臣賞が、優秀選手団賞として愛知県選手団、新潟県選手団及び長野県選手団に厚生労働省職業能力開発局長賞が贈られました。

【会場の様子】



（建具職種の競技風景）



（和裁職種の競技風景）

（照会先） 職業能力開発局能力評価課振興係（内線 5968）

（注）この資料は、厚生労働省内の各部局において実施した業務改善事例や実態把握のための取組の中から、主なものを抜粋し、取りまとめたものです。